

再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担当課: 道路局国道・技術課

担当課長名:西川 昌宏

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

北九州市の人口は減少傾向にあるが、一世帯あたりの自動車保有台数は増加傾向にあり、令和2年時点では福岡県と概ね同程度となっている。

交通量は黒崎バイパスの開通以降、増加傾向にあり、依然として事業の必要性は高い。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成3年度に事業化、用地進捗率100%、事業進捗率約97%(令和7年3月末時点)

平成20年度: 黒崎北ランプ～陣原ランプ間 延長2.9km (2/4) 部分開通

平成23年度: 前田ランプ～皇后崎ランプ間 延長2.9km (4/4) 開通

平成24年度: 東田ランプ～前田ランプ間 延長0.9km (2/4) 部分開通

令和4年度: 春の町ランプ～前田ランプ間 延長1.5km (2/2) (4/4) 開通

令和4年度: 陣原オンランプ (2/2) 開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

【施工条件の変更、社会情勢の変化による増減】

黒崎西ランプ橋下部工の湧水対策の追加、物価上昇による資機材単価・労務単価の増。

【コスト縮減】

新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策より、着実なコスト縮減に努める。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を

設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。([]内は社会的割引率の値)